

# 週報 第3078回

幹事 白谷 喜世彦 副会長 原 眞理子  
幹事 小門 茂樹 S A A 山本 博章

例会場 ホテルレイクアルスターホテルザ泉大津  
T E L 0725-20-1121  
例会日時 毎週金曜日 12:30~13:30



事務局 〒595-0062 泉大津市田中町10-7 泉大津商工会議所3F TEL.0725-21-9500 FAX.0725-21-9501  
メールアドレス info@izumiotsu-rc.org  
ホームページ http://izumiotsu-rc.org

## 今週の例会(2020年8月7日)

### ■ プログラム

クラブフォーラム「クラブ奉仕部門」  
泉谷 仁博 会員増強・クラブ研修委員長  
上田 秀明 親睦・IT委員長  
南出 和成 親睦活動委員長

### ■ 先週の例会

先週木曜日、本当であればオリンピックの開幕式が挙行され、今日なんかはオリンピックも半ばにさしかかり、盛り上がりつつあることでしょうか。しかし、実際はコロナの感染が再拡大しつつある状況で動き出した日常生活も再び止まろうとしています。

### ■ 次週のプログラム

8月14日：定款の規定により例会休会

### ■ 会長の時間

先週木曜日、日本全国で晩の8時から1分半、約100か所で一斉に花火がありました。このへんでは、浜寺公園であつたようです。これは各地の青年会議所がコロナにまげずこれかやという思いで計画したそうです。また、今週火曜日、法善寺のあたりを歩いてみると、法善寺の方角からなにか奇妙な音が、法善寺を覗いてみると、水かけ不動産の前に行き交の人数が数名と信者のような方たちが集まり護摩行の火が数打つていました。横を見るとコロナ退散とかかれていて、なにやらパンデミック映画の一幕を見るようでした。

### ■ 今後の予定

・8月21日：「私の履歴書」  
松内 俊夫 会員  
小野寺 巧 会員  
・8月28日：ガバナー公式訪問

このように、いろんなところでコロナにたちまわかっていかなければいけないという動きがつつあるように思います。

### ■ 祝 誕生日

なし

いま、再び非常事態宣言をやれという声も聞こえてきました。しかし、前回と同じような非常事態宣言の行動ができるでしょうか？これは、経済的

### ■ 今月のロータリーソング

四つのテスト

## IZUMIOTSU ROTARY CLUB 第3078回

にも、人の気持ち的にもおそらく無理だと思いません。おそらく、次に同じようなことをやれば多くの企業が破綻し、経済活動が停滞し、国の財政も大変なことになるでしょう。

### ■ ビジター

なし

### ■ 出席報告

会員数41名 出席免除0名

月日	出席数	欠席	補充	出席率
7/31	33名	8名	—	80.49%
7/10	37名	4名	1名	92.68%

### ■ メークアップ

榎本(7/22 大阪帝塚山RC)

### ■ ニコニコ箱

・白田さん、今日は卓話ありがとうございます(白谷)  
・上田様、本日の卓話を宜しくお願ひ致します(小門)  
・丹農様、おめでとうございます。上田会員、卓話よろしくお願ひします(山本(博))  
・お誕生日お祝ひありがとうございます(平山)  
・欠席のお詫び(櫻井)  
・欠席のお詫び(細川)  
・早退のお詫び(藤原)  
・遅刻のお詫び(丹農)

ニコニコ箱合計	12,000円
累計	79,000円

### ■ PHF+4 (マルチプル・ポール・ハリス・フェロー4回目)



また、コロナについても多くの専門家の方たちが口をそろえていうのは、短期的に収束しない。長期にわたるとのことです。このことから考えて、いまコロナとどう付き合っていくかを考えていかなければならないと考えています。

私たち、ロータリー活動についても同様で、コロナ蔓延をうけて単に例会をやめたいというだけではなく、コロナが蔓延するなどのように活動していくべきかを考える局面にきていると思います。これについては、今後みなさんしっかりと考えていきたいと思っています。

また、今回のコロナはこれまでのあたりまえを大きく変えたように思います。これまではなにをやらね成果があるかわかってきた。自分が頑張ればそこそこ成果が出る時代でした。しかし、これからは周りの人と協力して、新しいものを作り上げていかなければいけない時代となってきたように思います。だからこそ、よき人のつながりが必要とされる時代だと思えます。その意味でいまロータリーの輪が必要とされる時代になってきたと思っています。

### 幹事報告

小門 茂樹 幹事

和泉ロータリークラブ例会変更のご案内  
8月12日(水)は休会

### 委員会報告

○メールボックスに、8月26日(水)泉大津市役所に於いての歌のチラシとポスターを入れておきます。テーブルに置いてます用紙に出席可能日と商品の進呈可能な方は併せて記入お願い致します(寺田 敏也 社会奉仕部門理事)

○例会終了後、会報・IT委員会を開催します(上田 秀明 会報・IT委員長)

○例会終了後、会員増強・クラブ研修委員会を開催します(泉谷 仁博 会員増強・クラブ研修委員長)

○親睦活動委員会から緊急のご案内  
コロナウイルス感染拡大の状況になっておりますので、8月21日(金)の納涼例会を同日、8月21日(金)12:30~の通常例会に変更させていただきます(南出 和成 親睦活動委員長)

ロータリー財団より

## 先週のプログラム 「マイロータリー・マイライフ」

### 卓話担当 上田 秀明 会員

昨年度、副会長を務めさせていただきました。大変お世話になりました。

選れればせながら、この場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます。

有り体に申せば、「何かもコロナがわやにしてしまう」という怖さはないでしょうか？

コロナと言えども余談ですが、驚くべきは「机以外の四つ足は何でも食べる」という中国の食習慣ではないでしょうか？皆さんも一度は聞いたことがあるでしょう。

元々、中国古来からの食習慣で、中国政府が野生動物の取引を禁止してもあまり効果はあがりません。そこには食に対する中国人の凄まじい執念が感じられます。

何故かって、それは今から私が紹介するドキュメントを聞いていただければいいでしょう。

1958年から1961年にかけて、毛沢東の提唱する大躍進政策の失敗のおかげで、5000万人が餓えのために命を落しました。

このときばかりは「四つ足」だけではなく「二つ足」も食べたといわれています。

このことは皆さんテレビでお馴染みの、石平という方が中国をつつた12人の悪党たちという本に書いています。興味のある方はお読みください。

少し話はそれますが、スターリン時代のウクライナの食糧難では次々子供が行方不明になりました。これ、どういうことかわかりません。皆さん想像力を働かせてくださいな。

どうやら天賦不順などの天災より政策の失敗からくる人災のほうがはるかに深刻な飢饉を招くようです。

このような人災からくる飢饉の経験が中国人に「机以外の四つ足は何でも食べる」という食に対する執念をより強めることになったのでした。

実は「机以外の四つ足は何でも食べる」には続きがあります。ご紹介しておきます。

「本足のものは机と椅子以外、2本足のものは家族以外、飛ぶものは飛行機以外、水中のものは潜水艦以外、なんでも食べる！」

食習慣はもちろん新型コロナウイルス発生の直接原因ではありません。ただこの言うことだけは言えるでしょう。中国にはその人口の多さ、食習慣も相まって、常に新しいウイルスが発生するリスクが存在する。

ただ私、おいしい中華料理大好きですよ。その辺は誤解のないようお願い。これは単なるジョークの問題なんです。議論をしてゆく上で問題点を際立たせるためにデフォルメされているにすぎません。今日の卓話を進めていくうえでそういう手法を使わせていただきます。そこを最初に断りしておきます。

コロナ、最近のマスコミの報道を聞くにつけ実に悩ましいものがあります。ある学者によれば、「新型コロナウイルスとの戦いは始まったばかりだ。野球に例えれば、2回の表、コロナの攻撃」だそうです。なんとか収束できていくと願っています。

本年、10月20日、東京ロータリークラブは創立100周年を迎えます。同時にそれは日本のロータリーが100周年を迎えるということでもあります。もちろん泉大津ロータリークラブにとっても創立65周年という記念すべき年です。

その記念すべき年の初めに、細川さんという、新しい会員が加入されました。その後多数の会入予定者がいると聞いております。誠に喜ばしいことですので。

いずれ新入会員を対象とした「炉端会議」という勉強会が開かれるはずですが、「炉端会議」では、決まってポール・ハリスに始まるロータリーの歴史、五大奉仕の説明等を、先輩講師が板に水のように話し始めます。私などは、これはいけななことなので、法事の時のお坊さんのお経のように聞いておきます。ハリスからは右の耳から入って左の耳から出ていく状態になっています。

そのような私でありますから、あまりそのような勉強会に行かなくていいかと、呼んでいただけなかったらどうか、おそろしくその両方であらうと思います。

ですから私には誰かからロータリーのことを教えてください、手ほどきを受けたら、そのような経験はありません。疑問点は自分で調べ、自分で学んできましょう。その結果、私なりロータリー観というか、そういう意味では泉大津的ではないロータリーンになってしまったかもしれません。

## IZUMIOTSU ROTARY CLUB 第3078回

先程、勉強会ではロータリーの歴史や五大奉仕の説明がとうとうと申しましたが、だったらどうせというやん！という話になると思います。

ロータリーの歴史の中核的な部分だけを先ずは学ぶのです。後は経験を積むことに知識として付け加えていけばいいのです。例えば今年職業奉仕委員会であれば職業奉仕を、次年度社会奉仕委員会であれば社会奉仕を、しまにはロータリーの歴史も五大奉仕も学んでしまします。それが普通のロータリーの学習行動であるはずですが、ですから今の「炉端会議」の在り方を決して否定するわけではございません。ただ「知ってのつもり」ぐらいの表層的な知識しか知らないのです。少なくとも私の経験からすればあまり効果的ではなかった、まずはハウツーもどきとでも申しませんが、これが分ればあなたも今日からロータリーン的なものを、ロータリーライフの羅針盤となるべきものを提示されるべきでしょう。

そんなもんがあるんか？といぶかる諸兄もいらっしゃるかと存じますが、それがあつたのです。

ロータリーの理念の中核的な部分、それはService above self「超我的奉仕」と、He profits most who serves best「最もよく奉仕するもの、最も多く奉仕するもの」という職業奉仕です。

この2つはロータリーの理念を理解してゆくためのキーワードであり、キーセンテンスであるのです。ほかのものはこの2つから紐づけていけば理解できるはずですが、それはまたロータリーの2つの公式標語ともなっています。

それではここで正確を期すためにMy ROTARYの記述を借りて説明してゆきます。

ロータリーの公式標語「超我的奉仕」と「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」の歴史はロータリーの初期の頃までさかのぼります。

1911年、オランダ州ポートランドで開催された大会で「He Profits Most Who Serves Best」がロータリーの標語として承認されました。これは、前年にシカゴで開かれた第一回ロータリー大会で、ロータリアンのアーサー・フレデリック・シェルドンがその演説を基に作られた標語です。シェルドンは行った演説の中で次のように語っています。「他者に対する人間の経済の科学のみが引き合うのだ。経営とは人間的奉仕の科学である。その

仲間にも最もよく奉仕するものが最も多く報いられる」

ポートランドでのロータリー大会は、もう一つの標語「超我的奉仕」が誕生するきっかけともなりました。大会中にロビンシア川でボート乗りを楽しんでいた米国ミネソタ州ミネアポリス・ロータリークラブのJ.E.ペン、コリンズは、シアトルのローリアン、H.E.ペンカムと、ロータリークラブを組織するにふさわしい方法について話し合っていました。

その中でコリンズは、自分のクラブで採用していた理念「無私の奉仕(Service Not Self)」を紹介しました。ペンカムは同じボートに乗っていたロータリーの創始者、ポール・ハリスを呼んで会話を続けました。ハリスから依頼されたコリンズは大会で演説を行い、この文言「無私の奉仕」が熱烈に歓迎されたのです。

この2つの標語は、1950年にデトロイトで開催されたRI国際大会で、「最もよく奉仕するもの最も多く報いられる(He Profits Most Who Serves Best)」と「超我的奉仕(Service Above Self)」に修正され、ロータリーの公式標語として正式に承認されました。1989年の規定審議会で、「超我的奉仕」がロータリーの第一標語として採択されました。これは、この言葉が利己的でないボランティア奉仕の哲学を最もよく言い表しているとの理由からです。一方、「He Profits Most Who Serves Best」は、2004年規定審議会で「He Profits Most Who Serves Best」に修正され、さらに2010年規定審議会で現在の標語「One Profits Most Who Serves Best」となりました。

以上は、My ROTARYからでした。

それではさらにService above self「超我的奉仕」、He profits who serves best「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」の考察を続けたいと思います。

Service above selfは「超我的奉仕」のことですが、Service above selfの訳語として「超我的奉仕」をあてられている無私であると思われま。第一、超我的という日本語は、ロータリー以外の日常生活では非常に使用頻度が低く、おそらく一般文獻には皆無と言ってもいいほどの登場しませんが、中国語辞書にはあつて、その英語ではその英語での訳明はsuperegoとあり、ますます訳がわからなく

なります。Service above selfを「超我的奉仕」と訳したものは、日本のロータリー史上、最高の名訳と同時に最悪の誤訳であると思えます。皆さんは一瞥して、「超我的奉仕」を自己滅却の奉仕、無私の奉仕であるかの如く思うと、それだけでしんどくなりませんか？

先程のMy ROTARYの説明にもあつたように、Service above selfのそもそものService not selfあるいはService before selfと言われておりました。あるいは自分意識をわすれたらいいという考え。aboveの意味は何々をこえてでありませ。またselfには自分、自己のほかには私利、私欲という意味があります。これを合わせたService above selfの直訳は「私利私欲を超えての奉仕」ということになり、これは「私利私欲を超えて他者の利益も図る。「利己と利他の奉仕」ということになります。どうですか、皆さん、英語のほうか理解しやすくないですか？

私はService above selfは訳さず、そのまま使おうべきだと思います。本来の意味がまわっていません。そういう意味で先程「超我的奉仕」は最悪の誤訳であると申し上げたのでした。

2005-2006年度RI会長カール・ヴィルヘルム・ステンハマーは、この方はスウェーデンですが、的確にロータリアンの精神を表しているとして、Service above self「超我的奉仕」をRI理事会に掲げました。国際大会へ行かれた方はおそらく感じただけであらうでしょう。多様な多様な国々のロータリアンがこの「Followship」親睦のために集まるのです。勿論、Fellowship「親睦」のために。私は植村さん、原さん、小門さん、松村さんとともに2015年のソウル大会へ行かれたつもりです。え、何ですって？お前らはただソウルで遊んできただけやろうって？御明察、その通りです。ですが、それでも肌で感じるものはあつたのです。

そしてもう一つの標語、He profits most who serves best「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」も、そもそもprofitは利益も上げる、儲けるという意味です。これは本来的にはロータリーのためにつくられたスローガンではありません。それは提唱者シェルドンの1902年のビジネススクールのテキストのSuccessful selling(商売に成功する方法)に出てくるビジネス用語なのです。実は継続的に顧客サービスとして確立してゆく経営上のサービス理念を説いていました。今風に言えば、顧客満足度を最優先した経営理念と

言えるのではないのでしょうか？

自らの職業を通じて他人に奉仕する考えで事業を営めば、その真摯な態度が顧客の心をえらえて、リピーターを生み、その結果利益が発生し、事業は継続的に発展する。職業奉仕は倫理的運動ではなく、職業奉仕の実践が結果として高い職業倫理につながるのです。

ところが困ったこととていうか、悩ましいこととていうか、職業奉仕の原文はVocational serviceなので、日本語では職業は英語の種を得るための生業、仕事という意味ですが、英語では報酬を伴うoccupationと必ずしも報酬を目的としないvocationに分かれるようです。シェルドンのいう職業は明らかに報酬を伴うoccupationです。ではどうしてOccupational serviceとならずにVocational serviceとなつたのか。推察としては当時のロータリアンの多数を占めていたユーリタンが自らの信仰にもとづくvocationという用語を差し込んだと考えられます。ロータリーの理念は神の意志に沿った崇拝高ものになったのです。このへんのところは以前榎本さんが、卓話でロータリーの理念とマックス・ウェバーの「プロテスタンティズムと資本主義の精神」を絡めてお話されていました。興味のある方はバックナンバーの確認を。

また以前から高寺さんに、日本の資本主義成立過程におけるウェバーのいうプロテスタンティズムに相当するものとして、石田梅岩の心学を指摘されておりました。確かに石田梅岩の心学を勉強されているロータリアンは結構いらっしゃると思います。残念ながら、私自身はまだ結構進むことができず。このへんの考察が違つてService above selfを「超我的奉仕」と訳した理由が分かるかもしれません。その名訳の名訳たるゆえが、当初いただいたプログラムでは、もっともプログラム案でしょうけれど、私の卓話は7月21日と記憶しております。今度いただくと、8月に細川さんが日本酒ソリエの資格を取得されるそうで、このテーマは彼の仕事と関係はあつておかないか、という、後輩の先達になっておかないか、という、今日のテーマとなりました。

Service above self「超我的奉仕」、He profits most who serves best「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」の考察を続けたいと思ひます。

第1条は、ロータリーの奉仕理念が説かれていませ。ロータリーは、本格的に、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と、義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情との間に常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕「超我的奉仕」の哲学であり、これは「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。

第2条は、ロータリークラブの役割について

①奉仕の理論を団体で行うこと  
②奉仕の実践例を団体で示すこと  
③奉仕活動の理論を個人で行うこと  
④ロータリーの奉仕理念と実践を一般の人に受け入れてもらうこと

第3条は、国際ロータリーの役割について

①奉仕の理念の育成と普及  
②クラブの拡大、援助、運営の管理  
③情報伝達およびクラブ運営と社会奉仕活動の標準化

第4条は、ロータリー運動は単なる理念の提唱ではなく、実践哲学であること

奉仕するものは行動しなければならない。

第5条は、クラブの自治権について

クラブが地域社会に適した奉仕活動を選ぶ絶対的権限を持っていい。ただし、ロータリーの綱領に反したり、クラブの存続を危うくするような活動を禁止しています。

第6条は、社会奉仕活動の指針について

他と重複する奉仕活動の禁止、大規模活動の制約、宣伝目的の活動禁止、奉仕活動の原則は個人奉仕であり、クラブが行う活動はサンプルにすぎないと記載されています。

「決議23-34」の英文対訳版もネット検索で簡単に手に入ります。解釈に迷った場合は役に立ちます。というのはロータリーでは英文での解釈が優先されますので、活用ください。

私は2010年入会ですから、クラブ「決議08-01」は入会の2年前ということになりました。詳しくは知りませんが、内容については説明を受けたことはありません。ただ細則の草稿作成過程で、全国クラブの細則を検索していますと、細則に「決議23-34」がいつの間にか、泉大津以外では僅か1クラブだけでした。当クラブは全国でも極めて珍しい、稀有な存在です。おそらく2007年RI理事会で「決議23-34」をロータリー章典と手続要覧から削除する提案がなされるという事態を受けてのものと思われま。その後、小沢RI理事会の努力もあり、2010年のRI規定審議会において、再度ロータリー章典、手続要覧に含めることが決定されました。

私が初めて手続要覧になった時、先輩から、要不要にかかわらず、手続要覧はいつも持っていて、と言われました。また幹事をした時には、これも同じ先輩ですが、手続要覧と定款・細則を並べてテーブルにおき、しっかりと読むよう言われました。最近では皆さん、原さん、甘くなったのか、はたまた後輩に嫌われるのを恐れるようになったのか、このようさまを見聞することはないになりました。ここで手続要覧と定款・細則の関係について触れておきますと、手続要覧の中のクラブ定款・細則のものとなる標準ロータリークラブ定款、推奨ロータリークラブ細則がすでにふくまれています。ゴルフに例えれば、手続要覧がルールブックで、クラブ定款・細則がローカルルールということになります。

手続要覧は世界中のクラブで使われるのを前提にしていますので、当然のように解釈の幅があります。ですからその時々ガバナンスが変われば、解釈も運用さえ変わる恐れがあります。正しく解釈運用されるか否かは、ガバナンスの側との良心に任されているのです。

その解釈の幅の間隙をついたのが、米田バスターグバナーに始まる一連の地区の混乱ではなかったのです。

しょうか？私は入会日数がガバナー訪問の日でした。米田バスターグバナーからバッチをいただきました。当時は皆さんからガバナーからバッチをいただいたことは名譽のことだとおっしゃいました。しかし、それは通常と異なること、それまでのガバナーには権威があつたと思ひます。米田バスターグバナー以後、私たちの地区は、他地区から2640地区御家騒動と言われるほど混乱を極めました。今は地区の混乱も終息してガバナーの権威もすっかり回復しました。

皆さん、知らないこと、わからないこと、何でも先輩に聞いていませんか？聞くという行為は間違ひではありません。むしろ、ごく自然な行為だと思います。先輩方の答えは90パーセント以上は正しいと思ひます。ですがどこか引つつかつたところ、どこか引つつかつたところというのは、ロータリーの基本理念に照らしてということですから、手続要覧や定款・細則を手にとってください。そして自らの手で確認してみてください。答えを自らの手で導き出して欲しいのです。その確認作業の繰り返しが、ロータリーに対する理解を深めることになると思ひます。

とはいえ、手続要覧、定款・細則は、決して完成された、固定化されたものではありません。常に時代の変化とともに書き直されていくものです。ポール・ハリスの言葉を守つてもなく、「ロータリー」の語は何度も書き換えられなければならないのです。

過日、私は現ロータリークラブの高橋会長とお会いする機会を得ました。今からすれば直前直後ということになります。妹さんが私と同級生であつたことから親しくお話しすることができました。私はその場で「何を言って、弊クラブをまためられるのですか？」と聞きました。そうすると「言わずともいい、親睦しかな」との返事を返してききました。弊クラブと書かないでください。かという私も90パーセント以上は親睦というロータリーライフを送っています。ただ大切なのは残りの数パーセントではないでしょうか？周年はその残り数パーセントの真価が問われているのでは無いでしょうか？

私は、ロータリーの理想は語らなければならない、語り続けなければならないと思ひます。宗派は浄土ですが、その教えに「ただひたすらの南無阿彌陀仏と念仏すべし」とあります。この教えよろしく、Service above self「超我的奉仕」とHe profits most who serves best「最もよく奉仕するもの最も多く報いられる」の2つの基本理念をこ

## IZUMIOTSU ROTARY CLUB 第3078回

### ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基盤として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。

具体的には、次の各項を奨励することにある。

第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。

第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること。

第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること。

第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

### 四つのテスト

＝言動はこれに照らしてから＝

1. 真実かどうか

2. みんなに公平か

3. 好意と友情を深めるか

4. みんなのためになるかどうか

## IZUMIOTSU ROTARY CLUB 第3078回

これからも語り続けたいと思ひます。最後に、私に様々な「機会の扉」を開いていただいた中直前会長に感謝申し上げます。そして、ご苦勞様でございました。